

会員数	35,232	(前月比) +108
郵送	8,806	(前月比) - 42
手配り	24,226	(前月比) 38
協同基金到達額	2,421,981,000円(3/31現在) [前月比 86,238,000増]	
協同基金出資者数	12,456名(3/31現在)	
いのちを守る助け合い募金額	51,828円(3/1~31)	

1部30円

ストレッチャーで患者さん役を搬送



3月21日、患者さんを中心とした。友の会から約40人が病院へ搬送するためのシミュレーションを行いました。加し、午前中は晴れの場合

搬送シミュレーション 外来運用シミュレーション

入院されている患者さんを安全に新病院に搬送するために、友の会と職員との共同でシミュレーションを行いました。外来運用シミュレーションも共同で行い、多くの会員さんに患者さん役として参加していただきました。

新病院完成 友の会と職員との共同で移転



待合で待つ外来患者さん役のみなさん

の搬送方法、午後からは雨天時の搬送方法を行いました。会員さんには、患者役として車いすやストレッチャーに乗っていただき、搬送時の注意点を実際のルーフトを通り確認しました。3月22日、30日には外来

運用シミュレーションを行いました。外来患者さん役として、受付から診察までの流れや、院内の案内表示などの確認を行いました。この2日間の取り組みに約40人が、友の会から参加されました。

新病院へ無事に移転



エントランスにあるモニュメント

4月1日、移転当日はあいにくの雨模様となり、患者さんの搬送ルートが3カ所から2カ所になるなど困難が予想されましたが、友の会から多くの参加をいただいた、移転シミュレーションの経験を生かし、ほぼ時間通りに、また大きな混乱もなく無事に患者さんを新病院へ搬送することが出来ました。4月4日には外来もスタートしました。新しい場所、新しい機械など患者さんにとって多くの不安があるなかのスタートです。様々な声に耳を傾け、地域のために友の会のみなさんと歩んでいきます。

新病院が完成して

八田宮園支部 丸井文子

昭和43年、耳原に就職しましたが、その当時の病院は木造2階建てでした。見学して決めたとはいえ、ここで働き続けられるだろうかと不安でした。一部の人の妨害にあいながら、地下1階地上6階建ての旧病院が完成した時、本当に感動しました。

あれから40年の歳月が流れ新病院が完成。良い環境で病院を利用する患者さんや地域の人たちが

聴診器

「螢の光」を英語で歌うときは戸口を閉めて小さな声で「朝の連続ドラマ『マッサン』

の一場面です。実話を基にした物語で、戦前・戦中・戦後の生業や街の様子も映しだされます。ドラマのヒロインはスコットランド出身ということもあって「螢の光」がよく流れてきます▼スコットランド民謡「螢の光」は童謡「赤とんぼ」「ぞうさん」と同様に5音階で作曲され、日本では「ヨナ抜き音階」別名「童謡音階」とも呼ばれています。また卒業式の歌として永く歌い継がれているのはご存知のおり▼ところで「螢の光」にも戦争の傷痕がみられます。現在歌われている歌詞以外に「千島の奥も台湾も」「台湾の果も樺太も」などがみられます。領土拡張に合わせた加えたのです▼太平洋戦争が始まって2年後の昭和18年(1943)に米・英の曲の演奏禁止、そして英語も敵性語として禁止されました▼因みに野球ではストライク・ツールのことを「よし2本」食品ではカレーライスが「辛味入汁掛飯(からみいりしるかけめし)」、楽器のサクソフオンは「金属製曲がり尺八」コントラバスの「妖怪的四弦」など驚きです▼戦争は歌や言葉までも歪めてしまいました。(八田兄一)